

# 東三河広域連合議会傍聴記

地方政治  
クリエイト  
伊藤 秀昭

■介護保険の統合  
小林琢生氏(豊川市)は広域連合で取り組む共同処理事業のうち、住民に直結し関心が高く、かつ事業費ベースで500億円にもなる介護保険事業の2018年度の統合に向けた取り組みについて質問した。

16年度中には広域連合が実施する事業や法定事務について実施要件を確定し、17年度には施設整備計画や介護保険料の設定を行う。準備事務を進めるにあたり住民説明会を開き、住民の声を聴いて取り組む計画。

福祉事業部長は16年度末には概略を、そして17年度の早い時期には全体像を明らかにしていきたいとした。

小林氏は各市町村の地域間格差をどのように解消し、地域

特性をどのように重視していくのかと詰めたが、介護保険統合のポイントはこのにある。慎重にして的確な取り組みを期待したい。

■住民のための統合であれ

「介護保険事業統

## いよいよ介護保険事業の統合

ついては、福祉事業部長が「介護保険料は東三河全体で統一した保険料にしていく方向で検討している。また介護給付費

たい」と要請した。柴田氏の発言は歯切れよく、明快な内容だった。

■海づくりは山づ

鈴木貴晶氏(蒲郡市)は、鈴木氏が蒲郡市議会での登壇の度に横に掲げるパネ

ルを豊橋市議場でも同じように掲げて、

「成長する広域連合」について質問した。

三河の森林行政や林業施策について質問を進め、東三河材の利用促進やペレットストーブ等の普及に話を展開した。最後は東京オリンピックに向けた森林認証(森林認証は、独立した第三者機関が一

定の基準等を基に、適切な森林経営や持続可能な森林経営が行われている森林、または経営組織などを認証し、それらの森林から生産された木材・木材製品へラベルを貼り付けることにより、消費者の選択的な購買を通じて、持続可能な森林経営を支援する取り組み)の取得について提案した。

結果として、「成長する広域連合を印象づける若さあふれる大胆な質問だった。」

東三河広域連合も時の経過とともに、あらゆる面で「東三河は一つ」の旗の下

合の成功を左右するのはすでに実施してきた市町村との調整・協議である」と、6点にわたって議論を展開したのは柴田吉夫氏(東栄町)。

特に「介護給付費準備基金」の取り扱いに

注目している。それだけに「住民への周知には時間をかけて取り組んでいただき

で成長してきていることが実感でき、広域連合議会も力がついてきている印象がうかがえた。

また、今回初めて東栄町議会選出議員からの一般質問がなされたが、今後、設楽町や豊根村選出議員の奮起を期待したい。

ただ、例えば森林行政などは連合長や事務局長が全て答弁するのでなく、副連合長である設楽町や東栄町、豊根村などからの報告を兼ねた答弁がなされるべきではないだろうか。7人の副連合長が一度も答弁に立たなかったことも気になった。